サンザシ

生薬の性状の項を次のように改める.

生薬の性状

1) サンザシ *Crataegus cuneata* Siebold et Zuccarini　本品はほぼ球形で，径 8～14mm である．外面は黄褐色～灰褐色を呈し，細かい網目状のしわがあり，一端には径 4～6mm のくぼみがあって，その周辺にはしばしばがくの基部が残存し，他端には短い果柄又はその残基がある．真果は通例 5 室でしばしば 5 個に分裂する．この分果の長さは 5～8mm，淡褐色を呈し，通例，各々1 個の種子を含む.

本品はほとんどにおいがなく，わずかに酸味がある.

本品中央部の横切片を鏡検〈*5.01*〉するとき，最外層は比較的厚いクチクラ層で被われた表皮からなる．クチクラは表皮細胞の側壁まで入り込み楔状を呈する．表皮細胞及びその直下の 2～3 層の柔細胞中には黄褐色～赤褐色の内容物が認められる．その内側は柔組織からなり，維管束が散在し，単独又は 2～数個集まった石細胞が多数出現する．シュウ酸カルシウムの集晶及び単晶が認められる．真果の果皮は主として厚壁細胞よりなる．種子は種皮で被われ，その内側に外胚乳，内胚乳，子葉を認める．真果の果皮の厚壁細胞中及び種皮の細胞中にシュウ酸カルシウム単晶が認められる.

2) オオミサンザシ *Crataegus pinnatifida* Bunge var. *major* N. E. Brown　本品は 1)と同様であるが，大形で，径 17～23mm，外面は赤褐色でつやがあり，斑点状の毛の跡が明瞭である．一端にあるくぼみは径 7～9mm，分果は長さ 10～12mm，黄褐色を呈し，通例，成熟した種子を含まない.

本品は特異なにおいがあり，酸味がある.

本品の中央部の横切片を鏡検〈*5.01*〉するとき，本品は 1)と同様であるが，柔組織中の石細胞は少ない.